

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 生徒の豊かな人間交流を促し、広い視野を持つ、健全な社会人、国際人としての成長を図る。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

2 中期的目標

1 生徒の「やる気」スイッチをオンにする

- (1) 効力感、達成感の育成
 - ア 授業等の中で自己表現する場をより一層拡充する。
 - イ 教科学習と学校行事、部活動等の活動との両立を支援する。
 - ウ 部活動参加率の維持（70%以上）をめざす。
 - エ 生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や態度を育む取組みを充実させる。
- (2) キャリア教育の推進（エリア選択等）
 - ア 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、「マイプラン」（1,2年次のエリア、2,3年次の科目選択）作成指導を計画的に実施する等、3年間をみすえたキャリア教育の充実を図る
 - イ 生徒の考える力・まとめる力・発表する力等を育成するため、エリア発表会の実施等、エリア学習の一層の充実を図る。
- (3) 進路実現の支援
 - ア 生徒に主体的な学習を促すとともに、学習活動の総和としてより一層、多様な進路実現を図る。
- (4) 資格取得等の推進
 - ア 外部資格取得をより推進し、生徒の「やる気」を引き出す。
- (5) 自習できる環境の整備

※生徒向け学校教育自己診断における「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定的評価を、H29年度までに+9（80）%（H26年度71%）をめざす。

「ガイダンスは分かりやすい」の肯定的評価を、H29年度までに+5（80）%（H26年度75%）をめざす。

「進路や生き方を考える機会がある」の肯定的評価で、85%以上を維持（H26年度87%）

※四年制大学進学希望者（第3学年当初）の一般入試受験率を、H29年度までに+6（32）%（H25～H26年度平均26%）をめざす。

2 「授業力アップ」に向けた取組み

生徒の基礎・基本の定着、考える力・まとめる力・発表する力等を育成するため、以下の取組みを実施する。

- (1) 教科を中心とした授業改善の取組み
 - ア 授業アンケート結果及び授業改善方針等を活用し、教科を中心とした授業改善の取組みを行う。
- (2) 教員相互の授業見学と研修
 - ア 経験年数の少ない教員を中心に、授業改善のための「授業力アップ」チームをつくり、意見交流・授業見学等を推進する。

※教職員対象の学校教育自己診断における「指導方法の工夫・改善」に対する肯定的評価を、H29年度までに80%以上（H26年度79%）をめざす。

3 情報の共有化

- (1) 学校教育の活動の「見える化」
 - ア 今まで学年、分掌、個人が個別に持っていた情報を収集・分析し、それを共有化し、より充実した教育活動を行う。
- (2) ICT化活用方針作成
 - ア ハード面も含め、本校におけるICT活用方針を確立する。

※情報委員会によるICT活用方針を作成する。

4 新しい地元校づくり

- (1) 中高連携
 - ア 中学生対象の出前授業等の授業交流を進める。
 - イ 中学校との部活動における連携を進める。
 - ウ 小中高PTA交流会の展開
- (2) 地域活動との連携
 - ア 地元地域活動との連携を進める。

※(1)については実施回数、参加者数を増加させる。また(2)については活動状況をWebページで紹介する。

5 生徒理解の促進

- (1) 生徒情報交換会の実施
 - ア 課題のある生徒についてSCと緊密に連携しながら生徒情報交換会を実施し、教員、養護教諭等が協力しながら指導方針を明確に示していく。

※保護者及び生徒向け学校教育自己診断における「よく相談にのってくれる」項目の肯定的評価をH29年度までに保護者向け+5（80）%（H26年度75%）、生徒向け+10（70）%（H26年度60%）をめざす。

6 中国等帰国生徒・外国人生徒にかかる教育活動の充実

- (1) 中国帰国生徒・外国人生徒の指導
 - ア 出身中学、母語指導者等との密接な情報交換を日常的に行い、渡日・外国人生徒の指導を行う。
 - イ 日本人生徒との交流の促進

※近隣市外教との情報交換会を年2回以上実施する。また校内クラス活動、行事等で渡日生徒と日本人生徒との共同作業を計画的に増やす。

7 国際交流の推進

- (1) 中国の学校等と提携し、相互交流を行う。
 - ア 生徒の短期語学研修の実施
 - イ 本校教諭による相手校における日本語指導
 - ウ 相互の短期留学をめざす。
 - エ. 英語圏の学校との相互交流の実施

※生徒の短期語学研修を実施するが、姉妹校提携は当面保留する。（国際情勢の変化も考慮）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(選択肢は、1＝よくあてはまる、2＝ややあてはまる、3＝あまりあてはまらない、4＝まったくあてはまらない。文中の回答の数字(%)は、特に指定しない限り1と2の合計を肯定的回答、2と3の合計を中間的回答、3と4の合計を否定的回答とする)</p> <p>○学校生活への満足度、全体的傾向 (関連質問)(1と2との合計(肯定的回答))()内は前年度(以下同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校に行くことに意義を感じている」 78(74)% 「門真なみはや高校に入学してよかったと感じる」 87(85)% 「施設・設備で改善してほしいものがある」 54(46)% ・保護者「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」 85(82)% 「他の学校にない特色がある」 87(89)% 「保護者の教育上の願いを聞いてくれる」 70(69)% 「施設・設備で改善してほしいものがある」 36(33)% <p>●生徒・保護者ともに学校生活への満足度が一層向上 ●「意義を感じない」生徒の割合を減らすため、今後も教育内容の一層の充実が必要 ●老朽化した施設・設備の改善が課題</p> <p>○保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者「学校からの文書等の連絡はしっかり届いている」 71(77)% 「子どもから学校の話をお聞きすることが多い」 68(73)% 「学校は、家庭への連絡や意思疎通を十分行っている」 65(65)% 「学校のホームページを利用した事がある」 46(47)% <p>●文書等の連絡や保護者が子どもから話を聞く機会を含め、家庭への意思疎通が十分ではないことが課題 ●連携推進のため、ホームページに学校文書を掲載していることを積極的に発信する等の取り組みを行う</p> <p>○学習環境、学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「静かに授業を受ける環境がある」 80(79)% 「教え方を工夫している先生が多い」 69(71)% 「授業の補習や講習は十分用意されている」 84(86)% ・保護者「進学のための講習が十分行われている」 75(74)% <p>●学習環境、教員の教え方の工夫について、生徒の評価は概ね高水準 ●基礎・基本の定着、考える力の育成等に向け、一層の授業改善と生徒の自学習習慣の定着が課題 ●進学のための講習について、保護者に連絡が行き届いていない可能性がある。</p> <p>○進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「進路や生き方を考える機会がある」 90(87)% 「選択のためのガイダンス(マイプラン指導)は分かりやすい」 73(75)% ・教職員「進路選択ができるようきめ細かい情報提供をしている」 92(84)% 「生徒に対してキャリア教育の視点を持って教育を行っている」 69(71)% <p>●進路や生き方を考える機会を積極的に設けており、評価は一層向上。科目選択ガイダンス(マイプラン指導)の評価も高水準であるが、生徒状況に応じ、一層分かりやすい指導の工夫を継続 ●教員がキャリア教育の観点を持ったうえで、進路部・教務部・学年が連携し、3年間を見とおした計画的な進路指導及びガイダンスを一層充実させる必要がある。</p> <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「制服・遅刻・頭髪指導は適切」 80(78)% 「学校生活についての先生の指導は納得できる」 75(79)% ・保護者「制服・遅刻・頭髪指導は適切」 86(83)% ・教職員「服装・遅刻・頭髪指導は適切だと思う」 91(67)% 「生徒指導において、どの教員も同じ姿勢でのぞんでいる」 59(34)% <p>●ていねいな生徒指導に対する生徒評価は概ね高水準、保護者も本校の生徒指導を概ね評価 ●生徒指導に係る教員の一致した姿勢について、教職員の評価が大幅に改善</p> <p>○人権尊重の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校では全体的に人権に配慮が十分なされている」 89(88)% 「相談にのってくれる先生がいる」 64(60)% ・保護者「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」 83(81)% 「子どものことで相談にのってくれる先生がいる」 72(75)% <p>●いじめや暴力のない学校づくりに取り組む学校の姿勢への評価が向上 ●相談できる先生について、生徒の評価が向上。生徒・保護者の相談へのていねいな対応を推進 ●生徒・保護者が抱える課題をしっかり理解して相談に応じる先生の存在、及び相談に対応する学校体制の充実が必要</p> <p>○学校の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員「生徒に関する話が日常的に行われている」 86(91)% 「教育課題についてよく話し合われている」 74(79)% 「教育活動全般について生徒や保護者の願いにこたえている」 87(83)% 「教育活動の評価を行い、次年度に生かしている」 82(88)% 「門真なみはや高校として、その方向性は概ね定まっている」 78(71)% <p>●教員は生徒の課題を共有し、生徒及び保護者の願いに応えようとしている。 ●再編整備対象校として学校の方向性について共有が進んでおり、評価は高水準 ●今までの取り組みを分析・評価したうえで、再編整備後の学校の在り方について検討を深める必要がある。</p>	<p>第1回(6月8日(月))</p> <p>○生徒の「やる気」スイッチをオンにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度の学校教育自己診断において「ガイダンスがわかりやすい」への肯定的回答が11%増加(64%→75%)。今後も生徒に「ていねい」に対応し、自主的に自分の進路を考える力を身に付けるきっかけを与えてほしい。 ○「授業力アップ」に向けた取り組み ・高校における授業力アップのための組織体制について質問に対して、昨年度、授業改善のために「授業改善打合せ会」を立ち上げ、取り組みを進めていること等を回答 <p>第2回(10月28日(水))</p> <p>○6限、2年生のエリア授業を見学</p> <p>○生徒の「やる気」スイッチをオンにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年のエリア発表会を今年度も予定している。 ・部活動加入率が70%第半ばに達している。 ○『授業力アップ』に係り、校内で研究授業の取り組みを推進している。 ・『国際交流の推進』に係り、夏期のグァム研修及びインドネシア研修の結果を全校集会で発表 ・生徒の主体的・自主的学習については、今後一層、取り組みを推進したい。 ○企業訪問等の取り組みの積重ねにより、就職(内定)決定率が100%になっている。 ○携帯電話等の使用について、実態を把握して十分な指導することは困難が多い。 ○運動部だけでなく、文化部(放送部・ダンス部・多文化交流部)等が学外の取り組みに積極的に参加している。 <p>第3回(1月21日(木))</p> <p>○平成28年度学校経営計画に係り、校長より平成27年度までの取り組みを継承・発展させながら、平成29年度からの総合学科への改編に向け、(1)総合学科についての積極的な情報発信(2)保護者との協力も進めながら、授業改善を一層充実(3)生徒の自尊心・自己有用感の育成に積極的に取り組むことを報告</p> <p>○総合学科への改編に係り、分掌からの報告にあるような、今までのさまざまな取り組みや外国にルーツのある生徒との共生を今後も進めて欲しい。</p> <p>○今後、アクティブラーニングを実施し、深く学ぶことが重要になる。今まで取り組んできた自分で考え、発表する等、多様な力を育成する授業をさらに推進するとともに、生徒には他者に教える機会等をおして、学びを一層深めてほしい。</p> <p>○現在実施している高校生が小学生に教えたり、通訳ボランティア等の体験が自尊心・自己有用感の育成に係り役立っていることから、今後も、取り組みを進めて欲しい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の「やる気」スイッチをオンにする	(1) キャリア教育の推進を通じた生徒の自己効力感、達成感の育成 ア エリア学習等の充実	(1) キャリア教育の推進を通じた生徒の自己効力感、達成感の育成 ア ・すべてのエリアで学習成果の発表等を実施 総合的な学習の時間等も活用し、エリアのまとめ学習等を通して、さらに考える力・まとめる力・発表する力等を育成する。 各教科においても、まとめ・発表の機会を充実する。	(1) ア ・第3学年で実施する普通科総合選択制アンケート「十分に力が付いたか」の全項目の肯定的評価について75%以上をめざす。 (H26 75%以下7項目中3項目)	(1) ア ・6項目で肯定的評価アップ 74～83% (平均80%) (○) *エリア発表会(1月28日(木)) *エリア学習及び各教科の学習において考えをまとめ、発表する機会の一層の充実が必要
	イ 部活動参加率向上	イ ・体験入部、入学時の学年・クラスでのていねいな入部指導等により加入を促進 ・部活動掲示板の活用等により校内で活動を周知 ・中学生向けに部活動の積極的な発信	イ ・体験入部活動等の実施 ・1年生入部率80%以上を維持 ・全学年入部率70%以上を維持	イ ・1年生入部率82%全学年入部率74% 5月末(◎) *入学時の入部指導・体験入部等により、高加入率を維持
	ウ 「マイプラン」の体系的な作成指導	ウ ・卒業までの教育活動全般をととして、組織的・系統的なキャリア教育を推進するため、進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、3年間を見通して指導計画を作成する。 ・「マイプラン」作成及び進路指導においては、教員の学ぶ機会を充実することで、指導力の向上を図る。 ・進路実現に向けて、特に自由選択科目の学習が重要であることを生徒に周知	ウ ・自己診断(生徒)で「ガイダンスは分かりやすい」(75%+2→77%) 「進路や生き方を考える機会がある」85%以上を維持 ・普通科総合選択制アンケート「自由選択科目は進路実現に役立つ」(65%+3→68%)	ウ ・「ガイダンスは分かりやすい」(73%) (△) ・「進路や生き方を考える機会がある」(89%) (◎) *学年の取組み等により高評価維持 ガイダンスの一層の工夫が必要 *再編整備後を想定し、教員の学ぶ機会等、組織的取組みの一層の充実が必要 ・「自由選択科目は進路実現に役立つ」(83%) (◎)
エ 進路実現の支援	エ ・各教科で授業改善の取組みを推進し、授業での生徒の主体的な学習を促すとともに、自学自習の習慣を育成 とりわけ自由選択科目が進路実現に向けた科目であることを生徒に周知し、学習を促す。 ・多様な学びの中で形成した個々の力を最大限発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。	エ ・授業アンケート 講義「授業内容を予習・復習」 「授業中は集中」 実技「授業に積極的に参加」 「授業中は集中」 の平均(75%+1→76%) ・授業以外の学習について ほとんど学習しない生徒数を3割減 (H26.9 1年121人2年116人) 学習時間の増加 (H26.9 1年26分2年20分) ・希望進路の実現状況 四大希望者(3年当初)と比較した一般入試受験率 (H25～H26 平均26%+2→28%)	エ ・授業アンケートにおける評価平均(76%) (◎) ・ほとんど学習しない生徒 (H27.9 1年52人 2年72人 3年51人) (◎) *H27.4 3年38人 ・学習時間 (H27.9 1年40分 2年20分 3年56分) (◎) *H27.4 3年24分 *授業評価結果は改善。生徒の主体的な学習は引き続き課題であり、取組みを進める必要がある。 ・希望進路の実現状況 一般入試受験率 (H26～H27 平均40% +14%) (◎)	
(2) 資格取得等の推進	(2) 資格取得等の推進 ・生徒が資格取得の意義を理解できるよう、教科・学年・エリア等で生徒に積極的に働きかける。 例：漢字検定・英語検定 エリア関連でのパソコン検定、日本語・中国語検定等	(2) 受検者の増加 i 漢字検定受検者数 (H26 177人)の5%増 ii 英語検定受検者数 (H26 41人)5%増 iii 当該エリア等の受検率80%以上 ただし生徒の選択状況による	(2) i 漢字検定受検者数(92人)*1回目 ii 英語検定 3級93人・準2級23人 2級7人・1級1人 *学外受検者があり、比較不可 iii エリア関連の検定 パソコン検定(100%) (○) 日本語検定(83%) (◎) 中国語検定(81%) (◎) *ハングル検定受験8人	
(3) 自習できる環境の整備	(3) 自習できる環境の整備 ・図書室・会議室等を活用し、講習以外で自主的に残って自習する生徒の定着を図る	(3) 年間を通じた自習教室等の利用日数 (H26 11月から→H27 4月初から 平日に自習室を開放)	(3) 図書室及び会議室を6月初めから自習教室として運用(○)	

2 授業力アップに向けた取り組み	<p>(1) ア 教科を中心とした授業改善の取り組み</p> <p>イ 教員相互の授業見学と研修</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科での取り組み 授業アンケートの結果を教員及び教科等にフィードバックする。 基礎・基本の定着、考える力・まとめる力・発表する力を育成するため、年間を通して授業改善に取り組むとともに、その結果を検証する。3年間を見通した指導計画と指導方法について、共通理解を図るため、資料を作成する。 *教科間の情報共有のため、教科主任会を定例化 <p>イ 教員相互の授業見学と研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習期間に合わせた若手教員による授業見学及び研修の実施 ・初任者の研究授業を活用した研修会等を実施 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート全項目の平均 (77%+1→78%) *非常勤除く ・自己診断(生徒)で「教え方を工夫している先生が多い」 (71%+3→74%) ・自己診断(生徒)で「授業でまとめ・発表の機会がある」(74%+3→77%) ・自己診断(教員)で「教員間で教科指導・評価のあり方について協議」(71%+3→74%) ・共通理解のための資料作成 例. 英語の Can-do リスト <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員(教職経験年数3年未満)は最低1回授業見学を行う。 ・すべての初任者の研修会を開催(すべての初任者について各1回以上開催) 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート全項目の平均 (78%) (◎) ・「教え方を工夫している先生が多い」(69%) (△) ・「授業でまとめ・発表の機会がある」(80%) (◎) ・「教員間で教科指導・評価のあり方について協議」(70%) (△) ・共通理解のための資料作成は検討を継続 (△) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の定着により、すべての初任者及び経験年数5年までの教員による研究授業を実施 (◎)
3 国際交流の推進	<p>(1) 中国の学校等との相互交流</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の短期語学研修の充実 中国及び英語圏(グアム・セント・ジョンズ・スクール)での研修を推進するとともに、他地域の研修についても検討 ・中国以外のアジアの国、地域との交流の拡大をめざし、積極的に交流を受け入れ ※いずれも国際情勢等の変化を考慮 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期語学研修に参加する生徒数を維持(H26 8人) *ただし交流費用等の条件を考慮 ・交流申込みの受け入れ数を維持(H26 3回) ・国際エリア生徒だけでなく他の生徒の交流行事への参加を促進(すべての交流行事で国際エリア生徒とともに他の生徒も、来校生徒のパートナーを務める) 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期語学研修等参加者(9人)(◎) *大阪府からのインドネシア派遣(3人) 8/2~8 *グアム(4人) 8/17~21 *中国瀋陽(3人) 12/23~28 *インドネシア・グアムでの研修参加者が、全校生徒の前で成果発表 ・交流の受入数(H27 1回)(△) ・インドネシアからの訪問を国際エリア含む21人で受入れ(◎) 6/25